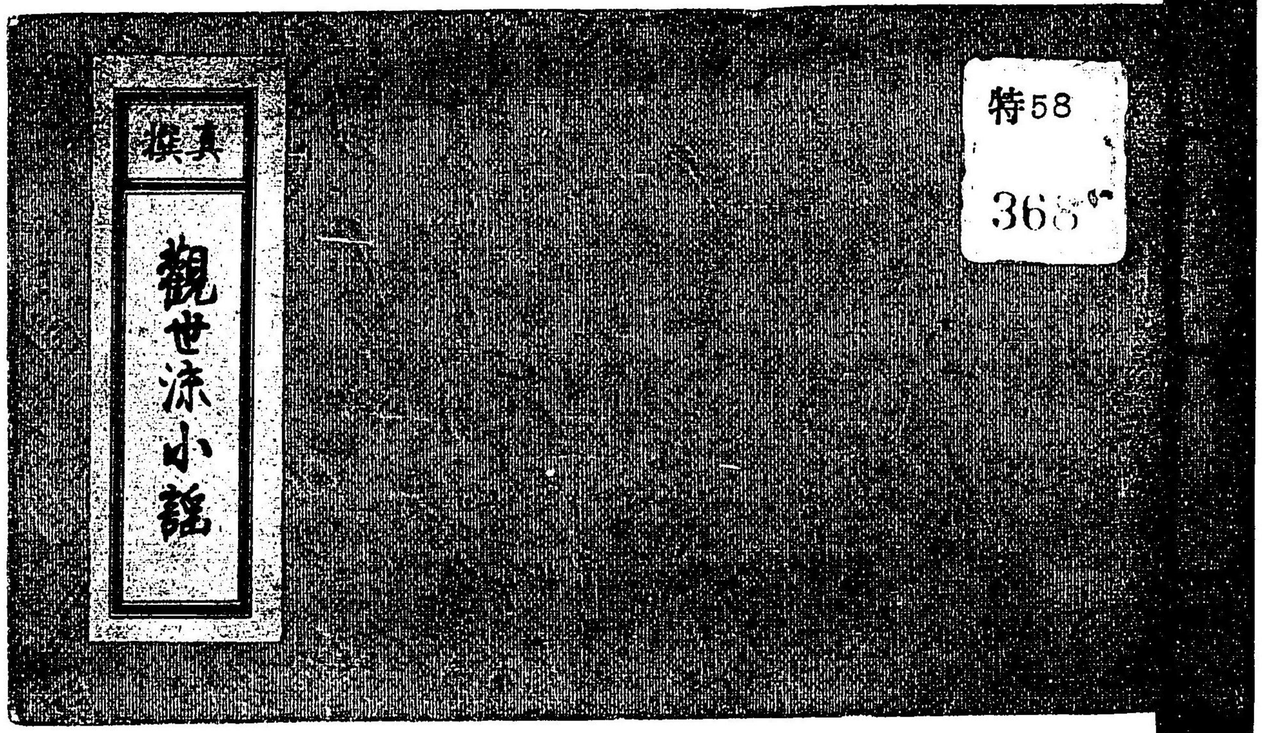

特58
368

074955-000-0

特58-368

觀世流小謠

木崎　嘉平／編

M27

CEL-0691

特58
368

古へより山姥に
よの世にはやり来
これらも其数みちし

東京図書館蔵

拙き筆
猶後書しく
ものなきり
よくもきゝつく
まそれ節つけける
きりとふ紀石盤よお

明治二七

祝言部

高砂　一二
難波　三四
老松　五
白楽天　六
巻老　七八
志賀　九十
蟻通　十一
玉の井　十二
加茂　十二
春の錦　十三
吳服　十四
八嶋　十五
皇帝　十六
氷室　十七
舟弁慶　十八
右近　十九
東北　廿
猩々　廿一
白髭　廿二
盡久

小鍋　廿二
鄽　廿三
唐船　廿四
弓八幡　廿五
江の海　廿七
代主　廿八
九世戸　三十
西王母　三十一
米山　三十二
弥寸　三十三
羅生門　三十四
住吉詣　三十五
高砂新　三十六
大塩　三十七
雷電　三十八
和布刈　三十九
大社　四十
東方朔　四十一
春栄　四十二
黄六天　四十三

ものうり姿のある女
もちに無くなりく
ゆくとく酒の高乃
こゝあきふなりん
ものうり

利蓋

石橋 四十三
合南 四十四
田村 追捕鄙 五十六 五十七
江口 五十八
金北 四十四
羊戾 五十五
札 四十五
岩舟 四十五
鬱則 四十六
彩 四十七
七拜落 四十八
浦路 四十九 五十三
故下侍 五十一
拔士壹 五十二
故生川 五十二
松出 五十三
三笑 五十四
絃馬 五十五
右

大會 九十六
東北 九十七
久 九十八
耶鄙 九十八
敦盛 九十九
木賊 九十九
輪藏 百
巴 百
卷絡 百一
熊坂 百二
半鄙 百二
舍利 百三
六浦 百四
知章 百五
沾 百六
絞法師 百七 百八
舟橋 九十
海人 九十
東斧屋 九十
夕類 九十
角田川 九十
通盛 九十二
泥牛 九十二
芭蕉 九十三
百萬 九十四
自然生 九十五
忠則 八十一
熊野 八十二
遊行柳 八十三
篠戶 八十四
牡若 八十五
安達原 八十五
初義 八十六
松風 八十七
西行撮 八十八
當麻 八十九 八十九
海人 九十
夕類 九十
東斧屋 九十
角田川 九十
舟橋 九十
絞法師 九十
通盛 九十二
泥牛 九十二
芭蕉 九十三
百萬 九十四
自然生 九十五

朝長 七十一
陸奥 七十二
狗賓 七十二
寄 七十三
餐 七十四
大蔵卷 七十五
楊枝 七十六 七十七
宝盛 六十六
玉葛 六十七
融 六十八
清經 六十九
家女 七十
通小町 七十
井筒 六十四
蟬丸 六十三
業平 六十二 六十一
鬱 六十
女 五十八 五十九
江口 五十七
遊女 五十六

土車 百十三
翌十面 百十四
右

雜部

千手 百十五
紅葉將 百十五
賴政 百十六
三井寺 百十六
天敵 百十七 百十八
鼠 百十八
宋女 百十九
小神貴我 百十九
竹生嶋 百廿
河清 百廿一
家御幸 百廿二
景清 百廿三 百廿四
二人靜 百廿五
愛道家 百廿五
俊寶 百廿六
松風 百廿七

西行櫻 百廿八
葛城 百廿九
鷺鳥大納 百廿九
定家 百廿九
竜田 百三十
隅田川 百三十一
花筐 百三十二
富士太鼓 百三十三
櫻川 百三十四
山姥 百三十六
善界 百三十七
女郎花 百三十八
三輪 百三十九
安宅 百四十
蟬丸 百四十一
殺生石 百四十二

野宮 百四十二
綿木 百四十三
唐船 百四十三
浮木 百四十四
羽衣 百四十五
芦刈 百四十六
木賊 百四十七
夢上 百四十八
經政 百四十九 百五十
巖 百五十一
巴 百五十二
流山 百五十三
卷絹 百五十三 百五十四 右
花月 百五十五
頂羽 百五十五
鵜飼 百五十六 百五十七
小督 百五十八
猩 百五十九
輪 百六十
雲雀山 百六十
吉野天人 百六十一
大佛供養 百六十二

土物尽 百六十二
小鍛冶 百六十三 百六十四
望月 百六十五
獅子師 百六十六
絃上 百六十七
笠考 百六十八
松虫 百六十九
鳥追 百七十
哥占 百七十一
國栖 百七十二
雷電 百七十三
眼君 百七十四

祝言部

高砂

所は高砂の浦々尾上の
松も年ふりて老の波も
皆陸奥
いのち
いきの松それとゝくき
多和ぶく

今

年久敷もに侍らんより通し
別るる耳と嬉ハ杉病ともよ
ば年までは生の夫婦と
ちるを

今

四海波静まれる御世なれば
時は風枝をならさぬ代
あきの末あいの花の松も
目出たかりけれ春やなほ

きそもいとも昌やかなる
よふぜの民とそ豊なる
君の為とて有難き君
のめぐみをたりがくらし

今

中ごろは松ぞまつ木すぐ
きそ十八公のよ枝多し
枝の繁りをなしてこそ今
乃色をとこそ姫皇の代よ

あづまの国の末なりとて
天皇も下民
ものと貴賤と

今

西東乃ゝ
だゝく成る事ハ東乃中ふ
も名ハ立ぬ物の世代のため
しまと和生乃和ぞめで
ゝき

今

さぞ名あるゝ
りゝ
福をいのゝ
となで美歳楽ハ命
とのゝ和生乃和風との
あゝ世たの

雅楽

祈ふまる心と生るゝ帰り

あき〳〵あまの月
きりぎりすなくなるこゑ
や秋露のすくるる代を
あふぐしも関の戸たゝく
くるまでのうき秋くれて
月新うる

今

秋風にはらはるゝこの花をこ
りぎりすなくはまべよりも

きてぞふるまぜ物乃風枝を
ゆるがすなみしをやそ
津の国のちるもの事ふ
るもとも豊なるのたゝ
こゝぞ宮ゐ遠ざかる
も

今

ゆるもとに故郷を中く
ふるほ
こゝちぶ家乃ぱの秋

歳のぢうこの国をたてま
いる

今

白ひも四方ふ蓋くゝり花を
らくれば天下治まるき
や万代の松盛今をめで
いるき

今

ひ音ふ引きつゝ万代
ま又出天下を守り治むか
天下をまもりさかむ蓋
歳こゝぎめでたきゝ

老松

松ゝう孫乃岩ゝをつゝふ
こけ迄ゝ安ゝの道を
も実すゝありやゝ山ゝ
ぎる雪のふゝえをも松勝
まるゝ花盛りゝ多ゝやゝ

と守綱の花植つぎやかま
りん梅の花ぐさをかとりん

今

此松俵と大木となり松をた
き書とまくべ木のうりをき
まをふるうて其前をとり
さげりしかば帯をとりふ
爵をみうり絵りしり松を
大まとりかりり

今

上剛
かやに多高き松梅の花
をくるまでの行末ひさふ
みうるり守ぐ
やはハすくも四下多代あま
うり命をくれぬ井の花
も松をもうもはる代は
まくかやくるまでの代の書く
うや

今

白樂天

養老

今

老をだに中なりぬべきく
塵の人の月ぶ業となれば
いつ迄も寿命を書きて
き泉我めでくかりの名実
や水の水上すあ代
とて流れの末の我まで
ゴもあ姫きよ

今

甕頭の竹葉ハ〳〵陰石緑り
と金ゐらん甚の籬の萩
花も林業は枝を汲なり
音の七貫が鄭とプ〳〵伯倫が
張び北水コ弱まりあや
人免こ業を君のたあ様

今

中ないえてハ花の父母う

雨露の恵を養ひえて此水
となれば菊の袂ひちて結ぶ
手の隙も久しき山の井の実
も萬々年より老の姿を
若水とみる社嬉しかりけれ

今

おさまる御代乃君ハ子の君
臣あんハ水つよく舟を渡
うかめて臣よく君をあふぐ
御代とて幾久しきをつ
きせじやつきせじ君が
引も玉水乃上とも時ハ
澄も濁らぬ瀧岸の水の
ぢきたつ川波の流れく
もよき御代なれやく
萬歳の道ふくりなん
く

志賀

春時遅たなびく雲の朝

ほのけしく長閑き風の

青柳山うき越へくれバ是

そこの歌に詠む志賀の山

さゞなみや湖遠き深めのな

し

今

とひ来る鶯の雲井をさして空

八陽の卯とも限のあま萬

歳乃はじきハ栄けり

くるき

今

今もへらぎ乃御代なる

かざ花まつりごとれ道直に

清らいの東南に霊ありまり

西北に風静まりて禁の林

さかゆくや花も常盤なれ

山松のちまくはうしつる

合

「ことを是和哥乃係るべ
やうを他と動う異邦
と感ずとなるとうや

今

いざくゝ八雲立出道まゝ
まなんゝ業ばちげ
の花の陰月に酒であま
乃京時業風ようつりく
業歌のあれあったあま

三六三三三三

蟻通

けまバ和歌のしわざは
邦代ちりもりぞまり
人倫ようあまれ一ツ是
とほめざるん中も貴
之ハ書どころを義して
人へ今ことの言葉を
をえるほてばびとのべ

君が代のまぐなり道
とあゝいはせり

今

かゝるさゝくにの山坂の関
の清水より数々の花づきげ
の山路を引きそえれば
ぎやうぶやれごろくより安
ゆく数島南枝の梅をか
け朝焉山風よいぞくより

神よりくく神心雄の神
竜の滅をあふがばるべき

玉の井

なゞき命をくうて老る
くゝの春もくりな
き月社桂乃光りきふ
枝をつゝ移て法華より朝
夕なゝ玉の井のゆうき
数りハだのゆゝ

加茂

[illegible]

春日龍神

[illegible]

今

其外当社の有様の山ハ三笠
に臨ミすや春日の朝ふ
頭をめぐらしちかひをよもとふ善
日暮く宮路をもまゐる曇り
なき西乃大寺月をみて光
が増る七大寺なれば法の花と
八重桜乃都とて春も長く
春とも秋をも見けりけれ

呉服

然れバ万代よ絶せぬ御調
なりとて世に定めおかれ
呉織のもじをかりつげて
くれハどりあやハどりと
名付けて世に伝へバ年をも
へるく色をもあやの錦
乃唐衣色もしも君が御
ふかきためしを引く糸の
かゝる御代ぞめでたき

今

衣のあやを織たてゝ我
君よりけるの氏のため
乃二人の激昂是程強八の
とりゝこゝれもあやも是
とりゝ乃ちきおうるる
きぬをめでたれ

八嶋

鈴のつゝ海を波の上ゝ
かをみほりてみるゆくやあ
まの少船のほのぐゝとみへ
て鈴の名書浦風ものゝ
かなり書ゝ少を漕ふらせ

皇帝

寿きなれやこゝに契りて天
おぐく地久しくそつる時も
あるまじ

水室

高砂や水室の山の深みどり
春の氣色はかなしき
ばかり陰ハこぞのまゝ
の雪をいつまでも霜の篇
乃年ごとに新しろのうつき
守るなり

今

夏の日はなをまぢかきぬを
ぬり表しろ風やすぎて
吹ら毋笑たくなれや蕃
お附に有あるを君のめぐ
こゝ色もくて都の外入
水山はつゞや蕃ふ山の枝
さげをこのもかげの下
形よ。ありもし雪の形亀山
待も木もし大君れ三かげふ
ゝ

今

花の都へゆきをわさ雲を
吉野ごえて小山ぶしや都
もみくしうくいきげや
いとげの松のあをぎもつ
砂を愛宕の郡。指ぐ当
借ぐもの北野の暮の傳
洞ねしてめでたきを

舟弁慶

結ぶ勾踐ハ二度ものり
名を残す馬をすぎしも
陶朱功をなしとゝやれば
越の国下ってまつりを
名を伊也功名を貴く
心のごとくなりぬと孔成
名とげて名をあらぬくい
天北道へ四人で小舟掉
こゝゝ山路北を陸をた

の、[illegible]なれども
[illegible]の月[illegible]を[illegible]
西園の[illegible]清[illegible]の
科のなきうつ[illegible]
[illegible]頼[illegible]
[illegible]柳の[illegible]
[illegible]

右近

[illegible]あまみて[illegible]

の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今

[illegible]
[illegible]
[illegible]

冬り宵遊やしく

今

洛まり都は花ざかりく
東南西北も青せぬ浪哉
花も色りふ小姓の妻緒
ごいけ乃水まづ人の花とう
つーらうーうろへ
揚衣はうし物き甚も梢
まあのり松まこうづうふ花
多のとぶけまがけて雲
まつさいもるかふあづまや
雲はもむぜもるかまにりが
ろやくまのも風ま錦はあ
がうせ務しけり

東　小

春うろや霞の関をけき
数へてかく界へ行りなり
武蔵野を分まして

[illegible]山又山は雪を積
く都の[illegible]も出づくも[illegible]
までのぐけかるらん[illegible]
[illegible]

[illegible]

老せぬやうにと薬の名を
と菊は水の盃もうりば
出て[illegible]
[illegible]

今

[illegible]
の竹の[illegible]
つ[illegible]
ぬ[illegible]盃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
と思へばいづれはを[illegible]盃

[illegible]

白髮

[illegible]

今

[illegible]

盛久

[illegible]

[illegible]

西本願寺[illegible]居ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

小堀

今を盛りとゆふ花乃ゆ

[illegible]の神とひらはる

[illegible]

[illegible]時をえて

[illegible]をまつ[illegible]の世の

[illegible]や心[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おいらくの身ぞ悲しく

今

都邊ハなべて錦と成けり
し櫻をおらぬひとし
なき花衣きてまりな
利月も月と待生相ふ
あふ源氏宮や右右や小
塩の山をとりふしを小松代
も思ひはやれるし

郢曲

玉緒作乗の宝乱道邊の
三ちしよのりの名常花の
花を一時乃ゆめとハ白雲の
よべとなりぬるうききがか
みず縁の高色中ながし
おもより高き雲のうく
月もえハあまりけ
雲龍閣や阿房殿もえも

みちうちて「実もめなる
ものゝ様乃「蓮」の大金張也
物をまき四方にかゞく様
面の声花出入人道も出入り
と切ざるよ我国い城や
多くゆ寄宝の都市見
城の楽る切くゆと思ふ
の事実切なる千貨百貨
の品宝の形をつゝ絵て様

ねぢ声の美声のりくのあり
天ゝ色あき地ゝ動く
雷のあるもゆびたゝ
雷のあるもゆびたゝ
「蓮」三千条丈「日」もろ
うれの山をつゝをてゆこ
びれの月輪を出されり
「蓮」三千条丈「日」いとゞ糸
の山をつゝをてゆ

乃月編を出されしより
たゝくバ見ハ長生殿の内
ゆハ蓬萊をとゞ免くり
ゐ者つの前ゆハ日月遠
しゝゆ四をまなバ
ふりを

今

國安全長久乃ゞ
花もいゆゆしなを
まさり前乃蓮絵画とり
どりゆいぎや青ふよ
ぐれや遠の円ゞ
蓮形絵ゞ
ゞくまぐれバ日まゞ
ぎ絵蓮花絵のなと
とりゞくしくまも引
も光りかまや画の陰絵
めぐるまで久しゝ

我宿にうつし菊の香露
くみかはし幾世積りて
閑し殿らんもよりつきず
もとつことはり萬歳らくは
泉なる道バくめぞし
いやましにいづる菊水を
のめば老いもかくやらんと
むもちまかずどもつ
斗りなき命のよはひのかぎりなき
たのしミの栄花も栄
曜ミも究めつくへやすべき

唐船

春霄一刻その價を今も何
なからる雅の豪よりも猶
しどろもどろに八重咲き恋
びょう縁開く咲つるまか
雅のけしき有りくるまて
日本人も湛えせりたると

や箱根の神も細工し
給ふ

与八橋

杉高き木立つゝなる橋哉
炭ゆ〳〵雪ぬる代ハしき
〻の羽織ろ〻の男山寒
と書けき新〻兼て若
業歳しいの新なる神な
あゆとゝぶなり〳〵

今

来のちどりやうぎの八
橋山〳〵ちゆひの海も
ゆ〻かまて若ハ舟岳ハ水
面の雪〻を踏りなくなば
く美哉めぐ〻を色も
ゆ〻〻なる新神滝で
めぐ〻き神滝で目毎哉
かるも新

今

[illegible]

芦刈

[illegible]

今

[illegible]

ゆ〜やまぶきの花の
まゆはよみけく〜つくを
ときは武道ハつきせめや只
とそあそべ名ゆ〜ゆ
かまくらのうらをうち船
まそ有〜契りふ御あふ
縁しそうも〜ゆ〜れ

今

うきを紅ゆすぎ袖江の
袖の若葉ふをゆ者
涙月とのちり花をかり
よはの雲ゆ〜の住居の
色こそりゆ〜今ハ書べと散の
ゆ〜ゆ〜ゆ行ゆ方ゆの
ゆ〜のうゆ〜ゆ〜ゆ〜を
契りふゆ〜る事しそう道
しゆれ

江の時

三千界代うちまぎれ
昔福の爽と得一期生の
海よりやくふる代天の位よ
五代かる拾いの海山を
物ちぐ代のまうけてな
ぎさくぐふ世のつくもな
代ありがるや

今

万代の始きふといのと
とぐりて今行もて
世時のちもいつきぬ無
像のたのこ体彩とう
けつぐ間を久しく養雅
知の福をさづけ悪雅ハ
百里のまぎりいをいく庫
風も天邪のちもいなく

かゝる歌の和漢なきこゝろ
かゝるとくゝ

仲主

四方の雲消る雲の累まで
もゝ〳〵君のゝ〳〵歌はあき
らけき天津日新も山もふ
かる時代くりなき岩
とゝなるこゝ葛城の神義の
矢倉よ高きこゝろ〳〵

今

もゝよゝ麿よゝ
りの神恵〳〵和光の
歌のゝ中に巻へ物
なり國ども豊よてゝ
日のゝやゝ皇恵もゝ
まれゝ拝いの海ハ
けゝかゝゝ

今

よそほしき名は蓬莱の松
常盤の緑ぞ千代を守り
乃御威光ぞあまねくて
四海の浪も治りて富民
も豊なる御代ぞ貴かり
けれ

今

千早振る神の恵みや
春日野の影げにも車廻る
月乃影ふむ葵のふたば
よろず世かけゆりし姫小
松の千代をうけて水なる流
れとの羽色やまりとゆふ
高砂を留め神山の御神
かの丘乃御代を守り給ふ
なり此御代をや守り給ふ

今

蝶よ翔とりこの葉は響く

と雷なりいづくと其手つ
うせぬ代々くぎ毋藏べ
中午巳歳の四方後四道
ある門代で見出たる
門代で見出る

九世戸

天の橋立夫より
乃人も海人も浦ば思ふ事
なくて四方乃海めを面白
和風を音もげく立くる
浪も白めの月きこの
り面白ゆ

西王母

山農業鶴ぎ歌
夫天よめぐる星の巡く百官
響揺雲客や千戸万戸の羅
とならびほうを揚くく
知方法門遊るもうるて市

とかし金銀珠玉の光をま
しへ栄花かくやくとしらく
日夜の勝遊節会へざりくる
かくれなし八春見城其
朱しきことのかなしらんまし朱
しらもいつなしせ

今

三ちとせになりてふ桃のこ
しよりかくれ花さく春
あら事も唯是君のよの
恵ありつき国土のくどの雅
桃花乃色ぞしらへなるふ

嵐山

三よしのゝかしちとせの
花の種うへしを嵐山行うき
なり雅あそびぞめでたき
これ錦おふびぞ見まく

琊守

昔の仲麿ハ、我が日の本を
思ひやり、天の原ふりさけ見ん
るとながめし、春日の三笠の山陰
の月かとも、其色ハ明石の月
あれやなけりハ、あら殊勝彼岸
喜び長宗き寛遊りある
し

羅生門

曇りなき君の御代ハ久方
の、それもののどけき雲
雨まで音も静か都路の七ッ
の道も末をさして帰る海の
波をおさせぬ九重の表で
久しき

今

なおひしく続くよみき
ともかめて、花をとりぐ
なれやあづきりをやさしけ

心のひとつなるがはたらきの
まどゐ頼みあれば中ぶん
陽あるかふ

今

異名のまこゝろなく唯うち
とけてつまびらかに論りくり
しう雪の雨是我ひまの
あ語 題 是なく言葉の花も
ままさ月 白ひるふうきくれな
牡丹面をめぐる人心陽ぬ
中のたまむれば光りろ
やとろかたに近くかりて
かうらん

住吉詣

題 月の光に雑のちゆひ月なな
べるゆ 和光同塵八 住吉
のゆ 法人 芳 相成道八 利
物 ままて 雲

氏をあらはしむ[illegible]心を推しはかり[illegible]

[illegible]べきなり

馬帽子折

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是ことなりやうびうと美
のうちかと思へば又起ちが
つて傘なげ乃至移の頃を
道信男女は踊さびすめ
たりしの泉ふ綿りけるに
づまりしく見るとハよ
ろくよろくよりう事
ちげくるは方ぜん若氏
まぢとうは方歳若ちよ
まで光栄ふう時代こと目
出ちう稿

霧竜

庭の砂ハ重銀のごく玉を
はう移て変たへのうはへの
錦や多るは廉棟のゆ
こぎ〳〵鴛鴦の相池の汀
の鶴竜ハ達葉山とうを
なびく若柳を寄ぎ

春の雪とぞ見なされける

今

月宮殿は白衣の袂なくの
色ぬかるる花の油歟は時
雨のとみちなる純なるはき
えゆく雪は袖をひろげて
衣も薄き乃雪の上人の舞
樂の考ぐ夢覚羽衣
曲をなせば仙人の来こと
ゆきうたく代万代とぞ
久しく官人加賀丁殿より
をとも免君のよりいも長
生殿は君は長
生殿は還御なれば
生殿なる

和布刈

嘉元の歌に出て摘若菜
の歌に出て摘若菜

[illegible]
[illegible]年八[illegible]れ
[illegible]みどりなれめりのふ
の神宗[illegible]心をつくし[illegible]に
[illegible]君の恵をこゝのたり[illegible]

今

[illegible]あきらかなるやなつ[illegible]
[illegible]け[illegible]神代のめぐみ
[illegible]ほなるべき人[illegible]
[illegible]の[illegible]現あらはるる[illegible]
[illegible]有[illegible]き

今

[illegible]ば神代乃昔より[illegible]早
[illegible]友[illegible]神宗[illegible]恵[illegible]
[illegible]ちめいなるやかをハ[illegible]
[illegible]の雪[illegible]上ちハ下界の[illegible]神
[illegible]ま[illegible]ば[illegible]
[illegible]ふるき[illegible]海を[illegible]地なし
[illegible]て[illegible]國乃長門のかなしい[illegible]

[illegible]

大社

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

東方朔

[illegible]

[illegible]

今

秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

春菜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六天

[illegible]宮の花ぞのゝ花
の白雲立まよひ[illegible]
月よみの[illegible]
長寿[illegible]知も[illegible]
のべ乃行[illegible]神の花乃香ふ
[illegible]

石橋

獅子[illegible]でんゝ舞楽の
みぐもゝ牡丹のゝ
ぶき白ひみちゝ[illegible]
[illegible]
てやまやぼうんぼう
ぐぐりうんぼん頭
[illegible]
[illegible]

獅子王のいろはいなび
の草木をなる時分
きや百歳千秋と舞給ふ
千歳万歳と祝ひまいらせ
く君の為ことなを
り給れ

合南

是ハ是ハ高砂王の使者
〳〵寿命長遠長久
延命の変成王ハ因果延
の二世乃祈いと成就なる
〳〵是ハ是ハ有難ハ
る隠の浦ハ金浦ふさ
び帰る波の千秋万歳
のたかう成王ハ万歳百歳
の変の王ハ金浦のうら
まぢ出ようまるとなれ

草紙洗小町

[illegible]

日影[illegible]の[illegible]は[illegible]代[illegible]で

[illegible]は[illegible]で四海の波も

[illegible]民のとぎ[illegible]も

[illegible]代[illegible]堯舜の

[illegible]例[illegible]おこ

[illegible]かれの[illegible]く

[illegible]さのおの尊[illegible]守り給

[illegible]神[illegible]の都の

[illegible]の都の

[illegible]を[illegible]和[illegible]の道

[illegible]めぐ[illegible]

金札

[illegible]君を[illegible]民を守り

[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]敷[illegible]すれ

[illegible]代[illegible]成[illegible]

[illegible]

岩舟

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかのつめ[illegible]
面白やなつかしい詩哥の舟
を浮べ又は魚籠の聲あ
ゝ[illegible]曲水はなまぐ
さきる盃を浮むなり荒
面白や池水なんぞ

土蜘落

[illegible]

[illegible]國[illegible]兵[illegible]せ[illegible]
[illegible]ば程なく[illegible]勢二千萬
騎[illegible]なる[illegible]ひつ[illegible]
[illegible]の強くる[illegible]
のめ[illegible]
[illegible]しき忠勤の道
[illegible]たぐもき忠勤
の道[illegible]る弓矢の家[illegible]
[illegible]

淡路

種をまき苗を植て苗代乃水くらくして
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]氏[illegible]ぶ出現中[illegible]
皇孫ハ日向乃國ニ天降り
[illegible]して地祇出西の国で
[illegible]
[illegible]
[illegible]代[illegible]
天下をたもち給ふ[illegible]
[illegible]八十三万六千八百余
歳なり[illegible]日出[illegible]
[illegible]代とゆづり[illegible]
[illegible]現[illegible]
[illegible]
神代を見[illegible]の雲[illegible]

今

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

故下僧

[illegible]

[illegible]

すまこうりとよ古きるとこハ
ゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

放生川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へりきしバ我ひとりさき
もせぞ梅末皆紅葉せ
ぬ見れば物ゆ[illegible]の独り残ふ
[illegible]ぬ[illegible]ましもとなく
[illegible]舞うるを遊ぶらん

三笑

[illegible]代とく[illegible]松ハ久しき
例なり松ハ久しきあり
なり[illegible]年を老松の緑ハ
若木の時少松[illegible]雪にを
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

絵馬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

追悼し部

田村

今を其名を流るる清
水の〻〻深きちのひも
数〻よ〻ぎの〻〻〻〻
どり橋ぐのちのい夢く
て面白き美民をとるさど
のお悲の教り者稀き
や無ふ世界より今氏沙
ぬふ面現して我りが為の
歓世者あふぐを思感べ
しやし〻

今

振袖人れ八伊勢の海〻
あの杉家村立表つ〻〻〻
雲雪絶火をふ〻つ数
〻〻待よ月を変て〻山の
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
ぬくるみくるり雷よあ立と

みよう[illegible]ぎ[illegible]の[illegible]時方
の軍兵の旗の上に[illegible]は観
音乃光を放てこくうに
充行千の[illegible]は毎に大
悲乃ちから[illegible]者を[illegible]矢を
[illegible]て慶[illegible]せバ千の矢
[illegible]雨の[illegible]れ[illegible]
異形のうへに[illegible]を落きバ
[illegible]く矢先に[illegible]て

異形バ弱[illegible]付[illegible]
[illegible]有[illegible]く[illegible]
呪詛[illegible]毒業念[illegible]観音の
[illegible]をあ[illegible]せて則ち
[illegible]遍者[illegible]人則還[illegible]
[illegible]人乃敵ハ[illegible]
[illegible]観音[illegible]佛乃[illegible]

江口

[illegible]方ハ[illegible]食[illegible]

思ひ出づるに又あり時ち老
を少愛執の心ひとふるき
四月思ひ出づる高吉の縁
となりぬるを如何なる人ハ
古歌に嬢に迷ひ迷ひ宿の
罪をつくる年も積りて
うく年に迷ふ心成べし

今

来世に思へば偏の君思へばかりの
宿ふ花を尋ねと人をだに
いづくあるとれなり是と成り
やゆるして則蓮賢堂義
と成りとれ船ハ白象と成り
ゆく先と共に白蓮の白
雲に打乗りて西の空
ゆき給ふ者紅くて思ひ
ひりがたく社ハ哭ゆ

堀女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなく奥いとまたなげたふ

ぎゆな毎火のうくくも張

のくくく底パ男ひ生ゝり

月よりめりかゝ[illegible]きよ

う舟のりりげ清て園路よ

[illegible]山方法多[illegible]きを

めゆよせん〳〵

時是をんりまを世間ハ〳〵

だい悪人成とても慈悲

の心をもつて僧侶を

侍者すなゝば生徒よ

りまつ仏菓を授ふゝら

[illegible]生素のつ[illegible]社

他をたゝくべき力なれ

〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山のうつりゆくやまぶきの葉

船乃ちぢくをつゝ生で惜

きぶ浪乃よせよくいそ

きぶの栗陸よ早く送り

いりく

幸熟の山町

つゝべよ八霜達をいでき輝

嫁たゝ山あ樂をぶ

りけそもんみぶ

うり雙蟬も遠ぶの色

をうしかぶ百年ふぶ

せたゝぬつくもがぶれ

男ひい有時の新ぶ

我分れ

今

是ふつけそもほの世ぶ

で滅なりけぶ

かぶ移ぶ黄金乃ぶ

まつふ花を佛よりも尊て
ぞくりの道よりふよさと
ふのみちよりふよ

井筒

遠しとも思はでこゝに来ぬるかな
ゆかしく思ふ人の面影
有明のゆくへは西の山なれど
袖のはるもの秋の夜れの色
ゆかしとも思ふ人の面影

ともも定めなき世をゆめ
何の音ふかきあくまの

今

名のりはかなき夢さめ
てゝ〳〵ぬと老ける姿の
夢見結ぶもよなき江の
一村ぞくきのほる船のはるの
名殘なるもん夢さめて

て、霧深くと喜像のまぶと
なりかるいつ〳〵への経なり
かしき氣色うまく〳〵

三井寺

ゆゝしたなくや人でよ順経の
夢をさまさやゝ法の色も新
よ生人和歌の縁をつく時を
清行無常とひぐくなりや
夜の縁をけくとき

是生滅法と聞かなり 晨朝
ひぐきハ生滅滅已 八達ハ
寂滅為樂と書て常住の
道は縁の色月を数へ
て百八煩悩の眠りの醒く
夢の世の迷ひもぞやつき
なりや浮和の縁は嵐も立
陰の雲時なく喜ぬの月は
教を海色なりく明らん

実盛

[illegible]佛の[illegible]石を尋ぬる[illegible]

[illegible]どの[illegible]ゆけ乃まい

[illegible]ぬと[illegible]ぬし[illegible]の

[illegible]ふ[illegible]べきや知[illegible]人[illegible]

ぬ人[illegible]海[illegible]や彼[illegible]行

[illegible]の舟[illegible]も安き道[illegible]

[illegible]や[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]乃[illegible]の[illegible]れ

[illegible]前[illegible]乃[illegible]き

[illegible]絵[illegible]乃[illegible]

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]何

[illegible]乃[illegible]の道乃[illegible]

[illegible]べけ[illegible]や[illegible]ぬ[illegible]の

[illegible]へハ[illegible]ちもせぬ[illegible]の言[illegible]ふ

[illegible]くせハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

玉葛

照さげるゝや日の光〳〵
大慈大悲乃ちらいりゝ法
の燈火ありそゝりかゝなき陰
いそやとしらりせ〳〵

今

実妻執の雲きりの〳〵
迷ひもうやうりけ人
と御乳乃山あらげし〳〵
ゆちそ霧も限と数を
ふ秋の雲の月乳折果て
紅うめやうらうは
人をも世とも捨ハ人
とも世とも思ひ果て
作りかひしの数しの罪や
数くれうき名よ立も
まんげ此方罪ありい
きあり岩とる水の果ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かりげの堀ぞいあば月を
も神よりうり堀の汀より
流の多様老人と見へつるが
堀曇りよりうきまぎれて踊
もうそ歌ふ踊り沼とも
みせぬ歌ふ踊り

今

[illegible]
沖の人陸よりまぎれて月の
[illegible]

名踊り乃面歌や名踊
乃面歌

清經

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今

[illegible]

だづきハかるこそ西ハ矣さきや
北ハ清銀山ハ紫雲の蔭
ほとつゆくげ〜まんの銀と
そろへ邪見の眼の光なりい
くとのいろ通玄道場毒
明を清雅とやれるかきき
ぢハ波ぢりハらん海四海
の因果をみせくぢ是迄成や
滅ハうろ朝れ十念ぐれぬ

法の母ぢ頼をしまふ
鬼とかくぐるかハ清浄
ぐるかい清浄ぢ佛果を
ぢ〜ぐりがぐ事れ

来女

悪者成佛會　新かし　青ア
たや人間ぢとくぐ龍女
がぢくぐ我ぢくや宝蔵男
るなり来女と生男い清浄

[illegible]

岸つゝきたり是を南方
垂堀世界[illegible]

[illegible]

通小町

[illegible]
くれゝ井の[illegible]
けゝくゝゝゝ[illegible]
[illegible]月の面なりとそ
[illegible]

たゝと唯一念のゝゝゝ
[illegible]
野の山[illegible]
道[illegible]

朝長

[illegible]
の[illegible]
くゝ[illegible]
乃[illegible]
[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

焼捨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柏葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陣行は極楽の九品上生のう
てなるよめんくまりまで
きとのゞ御戒しいとまれば
業の作ありけるか。ゝ人で
は行ゆへ擬牛行もゝ南無
阿弥陀佛頼ゝ[illegible]
秋迦は道じく
一筋に家をまる牛をゆ
[illegible]
品上生の内陸ふゝやまん
ゝ。光明遍照十方の擬
ゝ。仏ゝ仏ゝ仏ゝ仏ゝ
ゝ寺乃者の燈
火陸頼むも。称念佛せ人
ゝ仏ゝ仏ゝ仏ゝ仏ゝ
ゝよ。後念仏ゝやゝ

今

抑響を極じゝ。数ゝ
ゝ生きゝゝ道擬ゝの
ゝ、ゝ仏ゝ仏ゝ仏ゝ
なれゝ。衆乃他の水ゝ

ちの濁れる水にすまして玉の
蔵をうしなふ事なく乃ち朱を
極め量りなき命乃佛なる
べしや若我成仏十方の世界
の衆生

鶯

聞くとてきくとうつゝ乃ふぶの
〳〵現乃夢のあけてもうれ
みぬ人の中に一枝

多くの衆生人乃心の中を見い
給へず経や祈へハ世をのが
れ出ることなり我ハ名法
みを捨て舟法の力を頼む
ス、ゝゝゝ
なりゝ〳〵

大原御幸

一念弥陀の誓ひ
光明を放つて十念の衆
の蔵を照し聖主の来迎を待

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つゝんたりとなさ姿

加茂

今

藤原ゆかり

うめ[illegible]月は春をさそん

げる浦りやまもあをもみても

我ながらよりなきを意

ふをかされくなかく悪

敷ふ聲[illegible]書りよさまハ

やかのしられ般ゆ

しのいなくと高砂の妻乃

鑑と戴き出物衣を着り

つ常はすり出を

松の緑とせて起せ

波紫への花ごふの

執心をしり佛ゆ

面べ蝶の今の数や

今

藤原元天

音楽乃をとハ松風よたく

[illegible]

面影ばかりや殘らん

〈

誓願寺

謡 法施頼むぶんは誰を一聲の

〈 ぶつちに生る蓮葉

の濁りも生まぬ心にて何

殺しのおりべきぶつ猛やこの

[illegible]

[illegible]

今

謡 唱へ[illegible]パ佛も我もなりの

〈 南無阿彌陀仏

の色ぶりぶつ玉藏心深心迴向

發願の法の色耳ぶりみと

[illegible]

色一群数万億の聖衆を
もて迎へ給ふ法華経
の文より
出給ふ

今

[illegible]
[illegible]
[illegible]

今

若我成仏の光をうくるもの人は身が力ハ行ずるの船の如くなるを掉さしてと海の岸へ着るなり

て樂を極むる世の道なれや千悪八邪乃まことの雲もはれ去ぬ月の面方も

清きしハ此掉を取ずとあむ

今

異香薫じて花ふる雪の紐をくるやもくるも貴き人のつゆかなぼうの聖

成ハ面しふ侍るこうてる六字の顔を仰ぎ日よ化仏

絵ふハ有ることなりける寿

瑞り郎

忠則

[illegible]
[illegible]やまの浦よの雨もや暫
[illegible]らん。[illegible]花つるさハ
[illegible]
[illegible]のあ[illegible]や山風の音と
[illegible]
[illegible]の若
[illegible]
[illegible]ハ海すゝ[illegible]だ[illegible]を
[illegible]
[illegible]ふ山乃
[illegible]

今

[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

花の陰に移るく夢のつげ
をとまち侍へ都へ言伝
はんとて花陰に宿り
本の行方をたづねとゝまり
く

熊野

[illegible]
の移りなく車なるや古歌
[illegible]の地蔵菩薩

歓喜と回向り。願提救世
の方便あらたなるこゝろ
と守り給へや宣や守りの
未すぐよ。彼し命ハ長き
乃憂宮の幸ゆ。
道の迷とや宣ゆ
や此道ハ冥途の道なる
恋ぶて名郭山
[illegible]

一のまいたちる妙斗の星
乃雲りなき時は月花の春も
聞くなり 經書堂は是かく
よ 其たゝち根を葉ね底
ぶ葉の陰とゆけば 去
の落ゆく河の道 や雁と
なく見ずとの車宿り馬
留め雲より花車おりぬ
乃夜ちはがさちは男

入、かゝり淀清水の佛の御前まよ
念誦して毎乃行攝をゆ
しう
さ奥

遊行柳

言、交さなる雨しく
せき絶く嵐ちつる澤遊
生ける柳やをみぐさ
る淵著生や紬よくちり
秋の霜露まけ夜こそて

れば昔を弾き古傷のくち
木の柳枝さびしく法路遺
すくもなく風の渡る墓地
涼し

今

弥陀の教を別のうけく
此歌一人念仏西方便方一
道生俱使一生常退光花
くつて寄るもいとあはれ

蘇声

折節引摺り来て
行浪の消ぬ沉む埋木の
岩の陰よりなびれりつて
戸の水底の藻屑の水茎
なつて根をなうんと思
ひしを思ひ出ふる吊ひ
法の道を法を尋

[illegible]の舟に乗べみちすがら
掉さしゆく程なく
死の海を渡りて新しのまく
ふもとくしに紙衾ふりう
くく紙衾に寄りくく
成仏をくだりの月となりぬ
成仏の月と我となりて

杜若

[illegible]
紫白無乃ら杜若の書[illegible]

[illegible]
のめれあるまの杜若乃
花もさきりの心開けて
りや今杜若未開[illegible]
や今ありて杜若未開[illegible]
成仏の法をえて
ぐせよ

安達原

[illegible]
唯是地水火風のかりの[illegible]

[illegible]

四、五道六道をめぐる
事唯一念の迷いなり凡
人界のあぐなる身を業
ずるに人さらに若き事
なし絶えは老と成あを
[illegible]
やいはるる我なりあぐ
なる心社恨[illegible]

[illegible]

妙義

[illegible]
石川やせゝのゐ川のそこ多
[illegible]
[illegible]月をなれを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

白版けり

松風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞ八業の法蓮華経を年ごろ学ぶ迦
葉仏の法八ときとけり
だ数々に成生小法まで八又
ろ法世をまろかれ時
八出く蓮華まで法の場
まるなり法法乃場
まで成なり

今

朝栗
色八へて撫子撫子ろ撫

今

花の錦乃そぬきま
雲のたへまに晴曇雲も縁
も紅と唯一声の鶯ハんや西
吹秋乃風なりけり

今

我八淮南の嶋だらも
ぬ山中ハ声ろるる
そハ南無阿弥陀仏の
なるぐ又他ものなきの

海人

今此經の德能をそ[illegible]

天龍八部人與非人皆遙見

彼龍女成佛極速疾

志願寺[illegible]毎年八月

法華會の勤行佛法[illegible]

[illegible]の長地と成と[illegible]

類とうけ給[illegible]

東岸居士

此法の母のうなれ輝[illegible]

の舟のこなたに揺ぎ出る紅葉
ふ面影

夕顔

[illegible]僧の[illegible]の帰いとうけて
数しらぬ[illegible]夕顔の
[illegible]の開くる法華の花
ふきと[illegible]蔵異[illegible]の袖ぶい
の伝ひ[illegible]の衣の紅
[illegible]こよいは何をつまんと

云かし思へば青柳出る花の松
[illegible]しは春[illegible]
雲の遠いもなし[illegible]
の道より[illegible]
[illegible]雲のまぎ
[illegible]

角田川

[illegible]
[illegible]

[illegible]

面影の[illegible]

[illegible]人[illegible]うまいの花盛

無常の[illegible]

秋の月[illegible]

[illegible]月の[illegible]

舟橋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

通盛

[illegible]

今

[illegible]

芭蕉

[illegible]

道なきをやみ迷ひ[illegible]ハ柳ハ緑
花ハくれなゐ[illegible]
[illegible]其まゝ法色香の[illegible]
[illegible]成仏の国[illegible]成仏の道
[illegible]

百萬

あゝわるの多仏の拍子やな
[illegible]ハそんどとりはべ
南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏南
無阿弥陀仏みさ頼む人ハ
あま衣の月かすみ雲晴
[illegible]西くゆく[illegible]仏
やなぎ[illegible]だと[illegible]ハ頼ま
[illegible]ぎる[illegible]たの海ざるべき

今

[illegible]
[illegible]

の歯の欠なるをば母をろせよ
四てあふぎの力でかゝる
稲づいもこの車路を都
まゆる時、さよう

月無居士

題 月の代表はすきがゝ浮
世の中をとくらべて先者先
うゝ
ゝ
ゝ
ん〳〵濃あげ浮人月無居士

星深乃神をゆゝせば乃
穂荒も毛乃神をゆゝさ
ぬ人いかゝ

今

題 中秋雨 ハ浪音〳〵せ
てい岸と〳〵〳〵ハらち天
雲まゝなる時乃〳〵
〳〵なる時ハふり〳〵雨ハ
〳〵〳〵〳〵の外の